

2019 年

ブルーベリー病害虫防除暦

JA中野市営農センター

* スモモヒメシンクイの発生園は、4月下旬にナシヒメコン(10a 当り100本)を設置する。尚、グランドプライズ以降の品種では7月上旬に再度設置する。

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	3月下旬 発芽前	① 展着剤 石灰硫黄合剤	(水90ℓ) 10mℓ 10ℓ	発芽前	—	300	(ふくろみ病) (胴枯病) カイガラムシ類	①石灰硫黄合剤に代えてトレノックスフロアブル 500 倍(収穫14日前、3回)を散布してもよい。 また、トレノックスフロアブル 500 倍を使用する場合、展着剤は、アビオンーE1000 倍かK.Kステッカー 3000 倍を使用する。尚、K.Kステッカーを使用する場合は必ず最後に調合する。 ②石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに飛散しないようにする。
月 日	落花直後	② 展着剤 フルーツセイバー サムコルフロアブル 10	10mℓ 66mℓ 40mℓ	前日 3日前	3回 3回	400	灰星病 ケムシ類 シンクイムシ類	①スモモヒメシンクイの越冬世代成虫が多い時期のため、散布の際は散布死角が生じないように注意する。
月 日	5月中下旬 (前回より14日後)	③ 展着剤 アブロードフロアブル アーデントフロアブル アグレプト水和剤	10mℓ 100mℓ 50mℓ 100g	14日前 前日 30日前	2回 3回 2回	400	黒斑病 かいよう病 ハダニ類 (シンクイムシ類) カイガラムシ類幼虫	①アグレプト水和剤、アグリマイシン-100 はぶどうにかかると種なし果を生じるので隣接園は注意する。 ②黒斑病の発生する場合は、再度、5月下旬にアグレプト水和剤 1000 倍(30日前、2回)を特別散布する。
月 日	6月上旬 (前回より14日後)	④ 展着剤 ベルコートフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	10mℓ 50mℓ 50g	3日前 前日	3回 3回	500	灰星病 アブラムシ類 シンクイムシ類 (ハマキムシ類)	①摘果果実は、腐敗病の伝染源になりやすいので土中深く埋めるか、園外へ除去する。
月 日	6月中下旬 (前回より14日後)	⑤ 展着剤 フリントフロアブル25 ダーズバン DF バリアード顆粒水和剤	10mℓ 50mℓ 33g 50g	前日 14日前 前日	2回 2回 2回	500	灰星病 (炭そ病) アブラムシ類 シンクイムシ類 ウメシロカイガラムシ	①フリントフロアブル 25 に代えてナリアWDGの 2,000 倍(前日、2回)でもよい。
月 日	7月上旬 (前回より14日後)	⑥ 展着剤 フルーツセイバー バイスロイド EW	10mℓ 66mℓ 33mℓ	前日 14日前	3回 2回	500	灰星病 (炭そ病) アブラムシ類 (カメムシ類) (シンクイムシ類)	①ハダニ類の発生がある場合は、ダニゲッターフロアブル 2000 倍(前日、1 回)を加用する。
月 日	7月中旬 (前回より10日後)	⑦ 展着剤 ベルコートフロアブル サムコルフロアブル 10 ダントツ水溶剤	10mℓ 50mℓ 40mℓ 50g	3日前 3日前 3日前	3回 3回 3回	500	灰星病 (すす点病) シンクイムシ類 アブラムシ類 カメムシ類	①果実病害防除の重要な時期であるので果実にかかるよう十分散布する。 ②収穫前日数に注意し、収穫予定の3日前には散布する。
月 日	7月下旬 (前回より10日後)	⑧ オンリーワンフロアブル イカズチ WDG	50mℓ 66g	前日 前日	3回 2回	500	灰星病 シンクイムシ類 (ケムシ類)	①今回以降果粉(ブルーム)溶脱防止及び果実汚染防止のため展着剤は使用しない。
月 日	8月上旬 (前回より10日後)	⑨ フリントフロアブル 25 バリアード顆粒水和剤	50mℓ 50g	前日 前日	2回 2回	500	灰星病(すす点病) (シンクイムシ類) アブラムシ類	①ハダニ類の発生園ではカネマイトフロアブルの 1,000 倍(3日前、1回)を加用する。
月 日	8月中旬 (前回より10日後)	⑩ オーシャインフロアブル アーデントフロアブル	33mℓ 50mℓ	前日 前日	3回 3回	500	灰星病 ハダニ類 (シンクイムシ類)	①シンクイムシ類の発生が多い場合、フェニックスフロアブル 4000 倍(前日、2回)を加用散布する。
月 日	8月下旬 (前回より10日後)	⑪ オンリーワンフロアブル アルバリン顆粒水溶剤	50mℓ 50g	前日 前日	3回 3回	500	灰星病 カメムシ類 (シンクイムシ類)	①晩生種で、灰星病、カメムシ類(シンクイムシ類)の発生がある場合、9月上旬にオーシャインフロアブル 3,000 倍(前日、3回)とモスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍(前日、3回)を散布する。
月 日	収穫後 2～3回 の防除	⑫・⑬ (展着剤) ICボルドー412	3.3kg	—	—	400	黒斑病 かいよう病	①ボルドー液は他作物に飛散しないようにする。 ②展着剤は、アビオンーE1000 倍かK.Kステッカー 3000 倍を使用する。尚、K.Kステッカーを使用する場合は必ず最後に調合する。 【落葉後～萌芽前までの防除】 ①コスカシバ対策で、トラサイド A200倍(休眠期、2回)を樹幹部及び主枝に散布する。
月 日	【特別散布】 落葉後 (11月下旬)	スプレーオイル 石灰硫黄合剤	2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	— —	300	(ふくろみ病) カイガラムシ類	①落葉前に散布すると薬害の発生に繋がるため落葉後に散布する。 ②発芽前の防除が積雪の影響で困難な園地は散布死角ができないように散布する。 (単用散布)

安全・安心な農産物生産のために防除・使用規準を厳守しましょう。

* 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。

当防除暦の複製・コピーの禁止